平成２５年（２０１３年）８月発行

第１９号

支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとづくり財団

もくじ

Ｐ１　支援員さんの声
Ｐ２　支援員さんの声
Ｐ３　秋吉台草原ふれあいＰＪ
Ｐ４　「食卓」からの絶滅危惧種

支援員さんの声

日々の観察の中で発見したことや活動での思いなどをお寄せいただきました。

環境パートナー　藤村亘男さん（環境カウンセラー、森林インストラクター）

支援員研修会では、いろいろと貴重な学習・体験をさせていただき、いつも次の研修会の案内が来るのを楽しみにしています。私は、現在「ひかりエコメイト」という団体に所属し、光市内でささやかながら環境保全活動をしています。

主な活動内容としては、〈絶滅危惧種であり、山口県が生息地の西限であるギフチョウの保護・増殖活動〉、〈竹林整備（里山整備）と竹炭作り〉、〈地元小学校と連携した「みつい里山学校」の企画・運営〉などですが、現在特に力を入れているのが、「みつい里山学校」です。

子供たちに里山体験をさせることを目的に、今年の２月に小学校３年生を対象に開校イベント（ギフチョウのクラフト及び竹の鋸切り体験と竹輪投げ）を実施し、現在は５年生を対象に米作りのお手伝いをしています。事前の準備も大変ですし、子供たちが怪我をしないようにかなり気を使いますが、子供たちが楽しそうにしているのを見るとこちらまで幸せな気持ちになります。今後も学校側と相談しながら、里山体験の対象を全学年に広げていき、たくさんの「さとやま博士」を誕生させたいと思っています。

支援員研修会のご案内

（詳細は開催案内参照）

○第１回　竜王山の自然観察

日　時：**平成25年10月14日（月・祝）9:30～15:30**
場　所：**きらら交流館、竜王山周辺**（山陽小野田市焼野海岸）
内　容：**竜王山周辺の自然に関する講義と野外観察（山野草と蝶の観察など）**

○第２回　滑山国有林を歩こう

日　時：**平成25年11月9日（土）9:30～16:00**
場　所：**ふれあいパーク大原湖、滑山国有林**（山口市徳地）
内　容：**樹木や滑山国有林に関する講義と滑山国有林の天然林などの観察**

支援員さんの声

堀江靖孝さん（光市在住）

1．生き物の調査とその保全・保護を考える

光市の大峰山（標高３０５m）の頂上付近にある貯水池と棚田です。貯水池は山中に有り、上流からの湧き水を堰で留める明治初期に造られたダム形式のものです。周囲には自然の樹木が生い茂り、鬱蒼として人の出入りはほとんどなく自然そのものです。

今年５月から観察に出かけていますが、生き物の種類と数の多さに驚かされます。その中で生物多様性の観点から保全・保護されてもおかしくない生き物を選択してみました。

(1)保全・保護種

ヤゴ類、マメダカ、マシジミ、カワニナ、サワガニ、ヌマ、ヌカエビ類

（その他は現在調査中です）

(2)モリアオガエルを除いたその他のカエル類

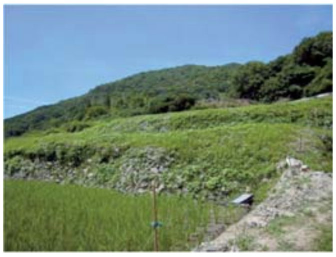
(3)アゲハ蝶、その他の蝶類

夏を過ぎれば棚田には水が無くなるかもしれないので、マシジミ、マメダカ、ヤゴ類を保護するため、その一部を採取して飼育・観察しなければと思っています。

(4)ブルーギルの駆除

貯水池の調査は、まだ一部だけで、その他の魚や生き物（貝類、甲殻類、昆虫）が棲息していると思われますので、今後、更に調査を進めたいと思っています。

貯水池


棚　田

棲息する生き物の一部

セスジイトトンボ

キイトトンボ

ハグロトンボ

ベニイトトンボ

ハグロトンボ

イトトンボ

（幼生）

2．渡り蝶アサキマダラ飛来準備

秋吉台の草原や竜王山では、自然の草花の保護・保全の大切さを観光を通して伝えています。フジバカマを植えて渡り蝶アサギマダラの地域ネットワークづくり（竜王山、鹿野、徳地）を進めており、自然と共存できる楽しみを広げ人と自然そして生き物たちと心通える自然環境づくりを目指したいと考えています。

今年、フジバカマとヒヨドリバナの苗を畑と庭に６０本を植えました。

フジバカマ

〈我が庭園のヒヨドリバナにアサギマダラ飛来〉

秋吉台草原ふれあいプロジェクトの活動

秋吉台エコ・ミュージアム　田原義寛

秋吉台草原ふれあいプロジェクトでは、秋吉台の草原を守るために「お花畑プロジェクト」「草原の復元プロジェクト」「山焼き応援プロジェクト」と３つのプロジェクトを行っています。

◎「お花畑プロジェクト」では、毎年７月頃、草原の草刈りをします。そうすると、今までススキやネザサ、クズといった、大きな植物の下に隠れていた小さな植物達が、日の光をよく浴びるようになり、どんどんと成長して、秋には、紫、ピンク、白、黄色と、色とりどりの花を咲かせ、お花畑が誕生します。また、花の蜜を吸いに、ハナバチやオオウラギンヒョウモンといった絶滅危惧種もやって来ます。人と自然の営みが作り出す環境は「里山」と呼ばれますが、秋吉台もまさに半自然草地の広がる里山です。このプロジェクトでは、お花畑を創り出すことによって、生物多様性の高い草原を生み出すことを目的の一つにしています。

◎「草原の復元プロジェクト」は、外来種などが大きく茂り、ヤブとなった場所をもとの草原に戻す取組みです。長者ヶ森の前のかつてクリ園だった場所は、土壌の富栄養化が進み、また、pH もアルカリ性に近く、畑作土壌に似ていることから、セイタカアワダチソウをはじめ、多くの外来種が繁茂し、草丈はゆうに２mを越え、人がすっぽりと隠れてしまうほどでした。プロジェクトでは、７月と９月の二回にわたり、草刈り作業を行い、刈った草は外に持ち出します。２００８年から、継続して活動を行った結果、多量に含まれていた窒素やリンといった養分が草と共に徐々に取り除かれ、秋吉台本来の草原が戻りつつあります。草丈の低くなった草原には、カワラケツメイやオトギリソウといった植物も見られるようになりました。

◎「山焼き応援プロジェクト」は、長年にわたり山焼きで燃えず、木々が生え、ヤブとなっている場所を刈ったり、山焼きの後、燃え残った場所をもう一度燃やすプロジェクトです。草原を燃やすことは、草原維持の三大技術の一つですが、燃やす時の天候や、秋吉台にヤブが増えていることから、必ずしも完全には燃えず、燃えなかった場所は、放っておくと、やがて森林へ遷移してしまいます。この 100 年で既に７割の草原が消滅し、今も草原の減少は進行しています。西日本で有数の規模を誇る秋吉台の草原をこれ以上減らさないために、秋吉台で遷移の進行している場所で活動を行っています。

古くから秋吉台の草原は、地域の大切な資源を得る場所として、利用されてきました。刈りとった草は、サトイモやゴボウ、スイカといった作物の敷き草や牛や馬など、家畜のエサとして使われ、今でもそうした営みは続けられていますが、ごくごく細々としたものです。今ある貴重な草原の保全から、草を刈ったり、燃やしたりする草原文化の継承もふくめ、持続して続けていくことには労力も伴いますが、一方、広々とした草原景観、動植物の観賞、草原野菜の味わいといった、秋吉台の素晴らしい恵みも享受しつつ、これからもプロジェクトの活動を続けていきたいと思っています。

「食卓」からの「絶滅危惧種」

山口県自然保護課

私たちの暮らしを支える「食」は、自然との密接な繋がりを持っています。

昨年９月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2012-2020」においても、「私たちの暮らしは、食料や水、気候の安定など、多様な生物が関わりあう生態系から得ることのできる恵みによって支えられています」とされています。しかし、近年では、私たちの「食」となじみの深い生物も、絶滅が危惧されています。

毎年「土用の丑の日」に食べる習慣のある「ニホンウナギ」ですが、今年２月に改訂された国のレッドリストにおいて、「絶滅危惧ⅠＢ類」に指定され、ニュースでも頻繁に取り上げられました。また、同様に「食」となじみ深い種として「ドジョウ」も、今回の改訂で新たにレッドリストに掲載されています。そこで今回は、この「ドジョウ」について紹介したいと思います。

ドジョウってどんな生き物？

◎生　態　ドジョウは、平野部の池、沼、水田、小川及び灌漑用水路等に分布し、流れの緩やかな泥場を好み、代掻きの際に水田に侵入して産卵をすることから、昔ながらの方法で管理された水田が残っているような、いわゆる里山の環境が生息に適しています。体は丸く細長く、上唇に３対、下唇に２対、計5対の口ひげがあるのが特徴で、近似種のホトケドジョウ類は口ひげが４対、フクドジョウ及びシマドジョウ類は口ひげが3対となっており、見分け方のポイントとなっています。

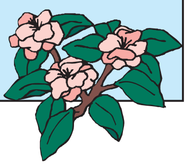
◎「食」との関わり　ドジョウは、「ウナギ一匹、ドジョウ一匹」と言われる程、栄養価の高い食材として、古くは江戸時代から親しまれており、柳川鍋、どじょう鍋や蒲焼き等に利用されています。

どうしてレッドリストに掲載されたの？

一般的にもなじみ深いドジョウですが、日本各地で放流や飼育施設等から逃げ出したと思われる**国外産のドジョウ(遺伝的に国内のものと異なる)**や**要注意外来生物であるカラドジョウ**が見つかっていることから、交雑や種間競争等による影響が懸念されていること等から、今回の国のレッドリストの見直しにおいて、新たに「情報不足（評価するだけの情報が不足している種)」の種として指定されました。

お知らせ

皆さん、Ｅメールの御登録はされていますか？御登録をいただいた支援員の方には、自然とふれあう行事等について、随時、御案内をさせていただいております。御希望される方は、自然保護課に電話・メール等で御連絡ください。

また、これらの行事等を主催される方で、支援員の皆さんにお知らせをしたいという方は、自然保護課まで御相談ください。

発行元：（公財）山口県ひとづくり財団　県民学習部　環境学習推進センター
〒754-0893　山口市秋穂二島 1062　　TEL 083-987-1110　FAX 083-987-1720
http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/